

Useful predictive factors for bacteremia among outpatients with pyelonephritis

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2017-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中村, 暢宏 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001952

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1783 号

Predictive factors of bacteremia among patients with pyelonephritis in general internal medicine

(腎盂腎炎における菌血症の予測因子の検討)

中村 暢宏 (なかむら のぶひろ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

腎盂腎炎は臨床場面では頻度の高い疾患でありしばしば菌血症を伴うことが知られている。菌血症を合併した例では死亡率が高い。しかしながら血液培養検査はすぐには結果が出ず、臨床の場において判断に迷いが生じることも少なくない。本論文は、腎盂腎炎において菌血症の予測因子を検討し、多変量解析の結果尿中亜硝酸塩試験が予測因子として有用であると結論付けている。尿中亜硝酸塩検査は簡便に行うことができる検査である。菌血症が血液培養の結果を待たずして予測に結びつく結果を得られるということは、臨床場面において非常に有用であり患者の予後に資するものであると言える。また先行する論文は、尿中亜硝酸塩試験に言及していない。また、多くの先行論文が入院患者だけを対象としているのに対し、本研究では外来患者も含めている。より実臨床に沿った論文であり臨床の場で非常に有用な研究であると考えられる。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。